

Ⅲ 救 急 の 概 要

1. 救急体制

(1) 救急業務実施体制

県内の救急体制は、昭和38年の消防法改正により救急業務が消防の任務として法制化されて以来、逐次整備充実されており、平成30年4月1日現在、県内全市町村において救急業務を実施している。

救急業務実施市町村（義務実施）

各年4月1日現在

	市 町 村 数	人 口 (人)	人口カバー率 (%)
昭和40年	4	326,530	38.5
昭和50年	16	786,596	73.9
平成30年	39	1,342,913	100.0

(2) 応援協定による救急業務

近隣市町村等による相互応援協定、西名阪自動車道消防相互応援協定を締結して、救急業務を実施している。

西名阪自動車道における救急体制

平成30年4月1日現在

	柏原 IC	香芝 IC	法隆寺 IC	郡山 IC	天理料 金所	天理 IC
上り車線	奈良県広域消防組合					
下り車線	柏原羽曳野藤井寺 消防組合	奈良県広域消防組合				

(3) 救急隊員と装備

救急業務は、人命救助という重要な業務であることから、現在は、救急隊員の応急処置の内容が明確化され、また、救急隊員に対する教育講習も義務づけられたことにより、救急業務の内容が質的に向上している。

平成30年4月1日現在、救急隊員数は1,079名で、救急自動車数は83台である。

2. 救急医療体制

(1) 救急告示病院

救急患者を受け入れるべき救急告示の病院及び診療所数は、平成30年4月1日現在、41機関である。

医療機関数

平成30年4月1日現在

	病 院			診 療 所	計	前年同期
	国 公 立	公 的	私 的			
救 急 告 示	10	4	27	0	41	40
そ の 他	35	20	33	1,057	1,145	1,164

(2) 救急医療体制の整備

休日・夜間における救急需要の増大に対処するため、県では、1次救急医療については、市町村を中心に地域医師会の協力を得て実施し、2次救急医療については、市町村が病院群輪番制により体制を確保しているほか、救急告示病院が救急患者を受け入れている。また、3次救急医療については、県立医科大学附属病院に高度救命救急センター、奈良県総合医療センター、近畿大学医学部奈良病院に救命救急センターが設置され、救急業務の円滑、適正な遂行を確保するため、体系的な救急医療体制の確立を図っている。

3. 救急業務実施状況

(1) 救急出場件数と搬送人員

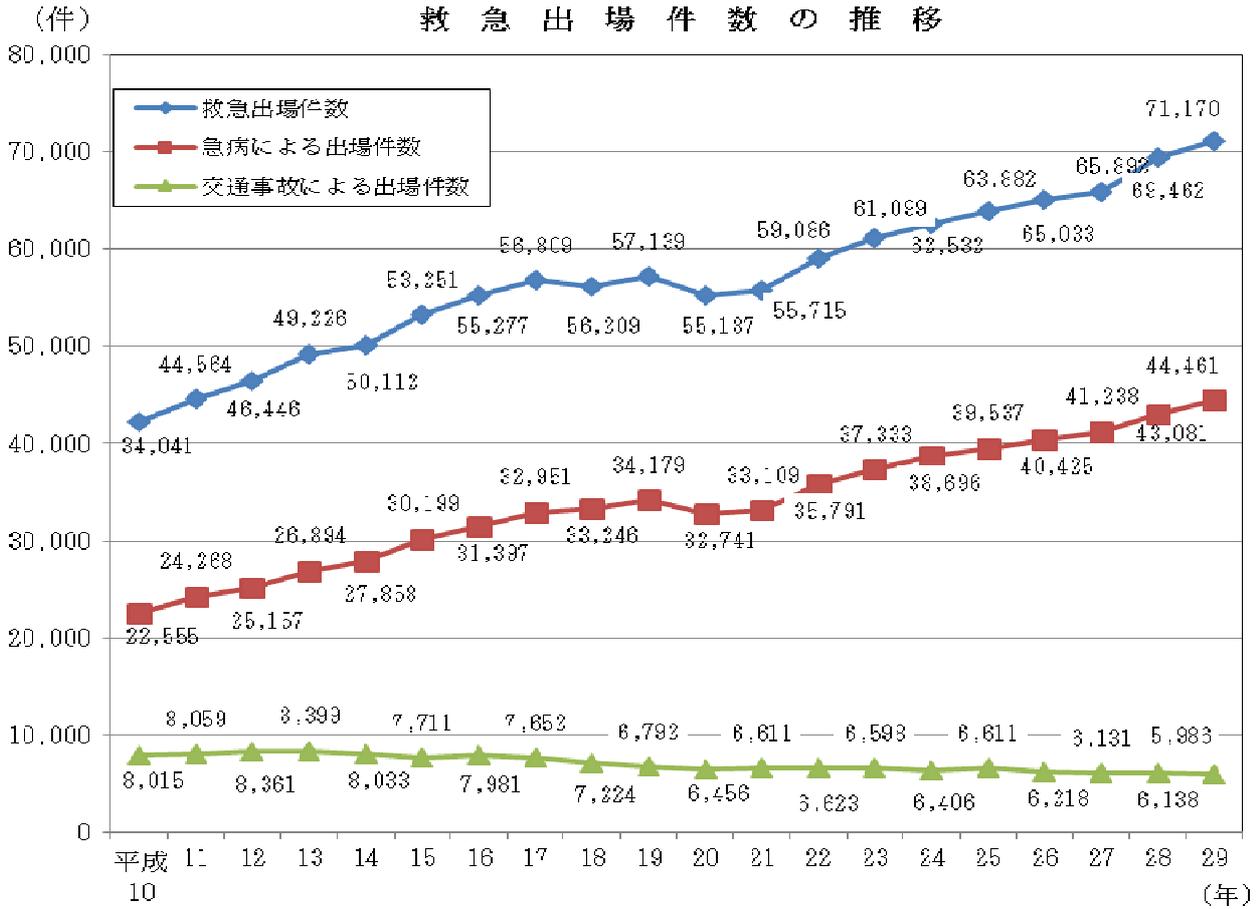
平成29年中における県内の救急業務実施状況は、出場件数71,170件、搬送人員65,772人で、前年に比べ出場件数で1,708件（2.5%）増加、搬送人員で1,397人（2.2%）増加した。

また、人口1万人当たりの出場件数は489件で、1日平均では195件、約7分に1回の割合で救急隊が出場していることとなる。

救急出場件数及び搬送人員

（単位：件、人、%）

	救 急 出 場 件 数						搬 送 人 員
	うち交通事故によるもの		うち急病によるもの		人口1万人 当 たり 出 場 件 数		
	件数	構成比	件数	構成比			
平成25年	63,882	6,611	10.3	39,537	61.9	455	59,521
平成26年	65,033	6,218	9.6	40,425	62.2	475	60,356
平成27年	65,892	6,131	9.3	41,238	62.6	452	61,241
平成28年	69,462	6,138	8.8	43,081	62.0	472	64,375
平成29年	71,170	5,986	8.4	44,461	62.5	489	65,772



(2) 事故種別出場件数及び搬送人員

平成29年中の事故種別出場件数は、急病が62.5%と最も多く、続いて一般負傷、交通事故の順となっている。

また、事故種別搬送人員も急病が62.2%と最も多く、続いて一般負傷、交通事故の順となっている。

事故種別救急出場件数及び搬送人員 (平成29年中)

(単位：件、人、%)

	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損	急病	その他	計
出場件数	307	9	36	5,986	706	476	11,716	272	604	44,461	6,597	71,170
構成比	0.4	0.0	0.1	8.4	1.0	0.7	16.5	0.4	0.8	62.5	9.3	100.0
搬送人員	69	1	11	5,881	666	478	10,990	209	439	40,894	6,134	65,772
構成比	0.1	0.0	0.0	8.9	1.0	0.7	16.7	0.3	0.7	62.2	9.3	100.0

(3) 年齢別・傷病程度別搬送人員

平成29年中の年齢別搬送人員は、老人が39,738人(60.4%)で最も多く、次いで成人19,927人(30.3%)となっており、新生児は127人(0.2%)となっている。

一方、搬送人員を傷病程度別にみると、死亡670人(1.0%)、重症3,782人(5.8%)、中等症29,216人(44.4%)、軽症32,076人(48.8%)、その他28人(0.0%)となっている。

年齢区分別、事故種別及び傷病程度別搬送人員（平成29年中）

（単位：人）

	合計	事故種別					傷病程度別				
		火災	交通事故	一般負傷	急病	その他	死亡	重症	中等症	軽症	その他
乳幼児等	3,393	0	179	953	2,025	236	3	39	637	2,708	6
少年	2,714	3	570	396	1,277	468	2	44	554	2,114	0
成人	19,927	32	3,590	1,990	11,518	2,797	80	816	6,868	12,153	10
老人	39,738	34	1,542	7,651	26,074	4,437	585	2,883	21,157	15,101	12
合計	65,772	69	5,881	10,990	40,894	7,938	670	3,782	29,216	32,076	28

（注）乳幼児等=満7歳未満、少年=満7歳以上18歳未満、成人=満18歳以上65歳未満、老人=満65歳以上。

（4）医療機関別搬送人員

平成29年中の搬送人員のうち救急告示医療機関へ搬送された救急患者は62,993人（95.8%）で、救急告示以外の医療機関へ搬送された者は、2,775人（4.2%）となっている。

また、医療機関への搬送時間は、30分以上60分未満が44,118人（67.1%）で最も多く、30分までに搬送された者は、全体の21.5%（前年は20.0%）となっている。

医療機関別搬送人員

（単位：人、%）

	合計	医療機関				接骨院等 ・その他	
		救急告示		救急告示以外		人数	構成比
		人数	構成比	人数	構成比		
平成25年	59,521	52,482	88.2	7,018	11.8	21	0.0
平成26年	60,356	55,660	92.2	4,651	7.7	45	0.1
平成27年	61,241	57,294	93.6	3,922	6.4	25	0.0
平成28年	64,375	61,043	94.8	3,326	5.2	6	0.0
平成29年	65,772	62,993	95.8	2,775	4.2	4	0.0

収容所要時間別搬送人員

（単位：人、%）

	合計	10分未満	10～19分	20～29分	30～59分	60～119分	120分以上
平成25年	59,521	18	1,584	11,709	36,794	8,672	744
平成26年	60,356	11	1,377	11,416	37,994	8,867	691
平成27年	61,241	9	1,201	11,207	39,177	8,929	718
平成28年	64,375	6	1,021	11,863	42,862	8,093	530
平成29年	65,772	8	1,106	13,015	44,118	7,112	413
構成比	100.0	0.0	1.7	19.8	67.1	10.8	0.6

（5）転送の回数と理由

平成29年中に医療機関へ搬送した患者のうち、転送を余儀なくされたものは283人、前年は327人で、そのうち2回以上されたものは、0人（前年2人）であった。

転送の理由は、処置困難が175件（62.1%）で最も多く、次いで専門外が54件（19.1%）となっている。

転送回数別患者数と転送の理由別件数

(単位：人、件)

	転送回数別患者数				転送の理由別件数							
	計	1回	2回	3回以上	計	ベッド満床	専門外	医師不在	手術中	処置困難	その他	
平成24年	453	446	7	0	460	37	99	2	0	235	87	
平成25年	483	479	4	0	487	41	136	3	0	225	82	
平成26年	424	419	5	0	424	26	114	1	1	211	71	
平成27年	390	386	3	1	389	24	103	1	3	200	58	
平成28年	327	325	2	0	328	16	102	1	0	163	46	
平成29年	283	283	0	0	282	9	54	1	0	175	43	

(6) 救急隊員の行った応急処置

平成29年中の搬送人員のうち、救急隊員が何らかの応急処置を行った救急患者は65,528人(搬送人員の99.6%)で、その内容は、血中酸素飽和度の測定が28.4%で最も多く、次いで心電図、酸素吸入、保温となっている。

救急隊員の行った応急処置

(単位：件、%)

	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	構成比
	止血	1,907	1,430	1,458	1,468	
固定	3,851	3,525	3,690	3,788	3,586	1.6
人工呼吸	198	432	440	415	376	0.2
心マッサージ	507	51	31	50	42	0.0
心肺蘇生	2,677	1,189	1,248	1,255	1,274	0.6
酸素吸入	11,865	11,736	11,828	11,639	11,991	5.3
気道確保	2,493	2,424	2,539	2,288	2,321	1.0
保温	6,458	6,743	6,512	7,287	7,590	3.3
被覆	4,826	4,749	4,876	5,068	4,958	2.2
除細動	150	159	168	161	158	0.1
静脈路確保(輸液)	648	541	562	674	739	0.3
心電図	17,311	19,893	22,678	25,645	26,523	11.7
血中酸素飽和度の測定	56,623	57,955	60,205	63,345	64,648	28.4
その他	101,222	88,971	92,078	98,467	101,984	44.8
合計	210,736	199,798	208,313	221,550	227,560	100.1

(7) 高速自動車国道における救急業務

西名阪自動車国道における救急業務の実施状況(平成29年中)

(単位：件、人)

実施団体	担当区域	出場件数	搬送人員
奈良県広域消防組合	天理インター～柏原インター(上り)	49	52
	香芝インター～天理インター(下り)		